

部局目標 [2020年度]

局名	広島拠点放送局
----	---------

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針	
1	中国ブロックの拠点放送局として、安全・安心の拠点の役割を果たすとともに、地域の魅力や課題を積極的に発掘し、県域やブロック、全国、さらに世界に向けて、放送を中心としたさまざまなメディアで発信します。	<p>◇ブロック内で発生した災害などの緊急報道に的確に対応するとともに、生活情報や復興に向けた動きなど、視聴者や地域住民に寄り添った放送を実施します。</p> <p>◇災害時にはインターネットを最大限に活用し、放送に接触する機会が少ない年代層にも安全・安心に関する情報を届けます。</p> <p>◇いついかなる時にも情報発信を継続できるよう放送会館や放送機器などの強靱化を図るとともに、事業継続計画に磨きを掛けます。</p> <p>◇域内各局を支援するとともに、ニュース・番組制作やイベントなどにブロック一体となって取り組む機会を増やし、成果物の質の向上と人材育成に努めます。</p> <p>◇中国地方を全国や世界に発信する機会を増やします。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	✓
2	全局をあげて被爆75年キャンペーンを展開し、特に若い世代に向けて被爆体験の継承に取り組むとともに、核兵器廃絶を願う市民の声を広く伝えます。	<p>◇放送やイベント、ネット発信、8Kシアターでの上映会、営業活動など、様々な機会を通じて、被爆体験の伝承に取り組めます。</p> <p>◇中国地方はもとより全国、全世界に向けて、平和を願う広島の声伝えるという被爆地の放送局としての使命を果たします。</p> <p>◇被爆建物の撮影など、4K8Kの特徴を生かしたデジタル記録に務めます。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	✓
3	地域にとって必要不可欠な存在となることをめざし、地元と連携した情報発信を進めるとともに、視聴者サービスの一層の充実を図り、11年連続の営業全目標達成を図ります。	<p>◇行政、教育機関、地元マスコミなどとの連携を強化し、地域から親しまれ、必要とされる放送局を目指します。</p> <p>◇8Kシアターの活用や放送と連携した催し、学生への就職説明会など、様々な機会を通じて視聴者との接触を図ることで、公共メディアへの理解促進に努めます。</p> <p>◇地域スタッフや委託法人に公共メディアの業務への理解を深めてもらい、営業業績の確保に努めることと合わせて、質の高い営業を実現します。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	
4	信頼される公共メディアをめざし、コンプライアンス、リスクマネジメントを強化するとともに、働き方改革の推進などを通じて、創造性と効率性の両立をめざします。	<p>◇質の高い業務と働き方改革の両立をめざす人材育成に努めます。</p> <p>◇コンプライアンスの徹底を図り不祥事の発生を抑えるとともに、日頃から局内・ブロック内の情報共有を進め、危機管理事案の発生時には的確な初動対応を実施します。</p> <p>◇世帯数の減少時代を見据え、局内・ブロック内の望ましい体制に向けた検討を開始します。</p>	“公共メディア”への進化	
			多様な地域社会への貢献	
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	✓

部局目標 [2020年度]

##

局名	岡山放送局
----	-------

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針	
1	安心・安全の拠点として、岡山県民の命と暮らしを守る防災・減災報道に全力で取り組み、より信頼される公共メディアを目指します。	<p>◇西日本豪雨の教訓を活かし、放送に加えインターネットやイベント等も活用し、県民の防災・減災意識の向上につながる情報を平時から発信します。</p> <p>◇災害発生時にはあらゆる手段を活用して、避難行動への誘導、被害やライフライン情報を正確かつ迅速に報道します。</p> <p>◇豪雨災害からの復興に向けた課題や人々の思いを継続的に伝え、被災地を勇気づけ、生活再建を支援します。</p> <p>◇災害に備え、放送設備の強化、安定した放送波の送出や受信設備の整備に努めるとともに、非常時の代替手段を準備し、訓練を行います。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	
2	県域サービスの一層の充実を図るとともに、あらゆる伝送路と技術を通じて、岡山の魅力と課題を全国・海外に広く発信します。	<p>◇夕方610と金曜730を軸にインターネットも連動し、岡山の課題をより深く掘り下げ、地域の活性化に貢献するニュース・番組を発信します。</p> <p>◇全国放送、国際放送に積極的に取り組み、岡山・瀬戸内の魅力を全国、海外へと伝えます。</p> <p>◇ハンセン病企画等を通じて高松局との連携をさらに深め、より効果的な「岡高連携」を進めます。</p> <p>◇岡山ゆかりの選手の応援などを通じて引き続き東京2020への機運を盛り上げるとともに、岡山の地域スポーツの発展に貢献します。</p> <p>◇自局制作の4K番組を推進するとともに、視聴者への4K8Kの受信促進に向けた活動を行います。</p> <p>◇県知事選をはじめとする選挙報道に万全を期し、有権者の判断に資する情報を、正確、迅速に提供します。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	
3	開局90年の取り組みなどを通して視聴者とのコミュニケーションを強化し、より親しまれる公共メディアを目指します。	<p>◇開局90年を記念した公開番組、イベント、広報活動などに全局をあげて取り組み、視聴者との結びつきを深めます。</p> <p>◇地元大学等との関係を強化し、若い世代のNHK・受信料制度への理解を深めます。</p> <p>◇これまでの業務を慣例にとらわれず合理的に見直し、定型的な業務の集約化、効率化を行います。</p> <p>◇働き方改革を一層推進し、職員・スタッフが心身ともに健康に働ける、創造性豊かな職場環境を整えます。</p> <p>◇コンプライアンスと職場の安全管理を徹底します。</p>	“公共メディア”への進化	
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	✓

部局目標 [2020年度]

局名	松江放送局
----	-------

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針	
1	公共メディアとして、きめ細かい防災・減災情報を提供し、地域の“安全・安心”に寄与します。	<p>◇地震、台風、大雨などの自然災害に備えて、日頃から防災・減災報道に力を注ぎます。</p> <p>◇テレビ、ラジオ、インターネットとあらゆる手段を用いて必要な情報を伝え、地域の人々の命と生活を守ります。</p> <p>◇全国で唯一県庁所在地にある松江市の島根原発をめぐる動きなど、地域の安全・安心に役立つ情報の発信と体制を整備します。</p> <p>◇行政機関はもとより、ケーブルテレビ局や地元住民組織等との連携を強化し、よりきめ細かな地域の安全・安心情報を提供します。</p> <p>◇放送の安定的な送出手のための機能強化と、良好な送受信環境の整備をします。</p> <p>◇受信料の理解促進と公平負担の徹底を図り、視聴者からの信頼をさらに獲得します。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	✓
2	“課題先進地”島根を見据え、“課題解決先進地”に向けた取り組みや魅力を発信します。	<p>◇人口の減少が続き、高齢化が進む一方、外国人労働者の数が増加している島根県で、地域の動きを見据えたニュース取材や番組制作に力を入れます。</p> <p>◇鳥取放送局とも連携しながら、人口減少に歯止めをかける取り組み、地域での外国人との共生、外国人の高度人材化など、山陰に共通する地域の課題とともに新しい時代への胎動を積極的に取り上げます。</p> <p>◇地元を取り上げたコンテンツの有効活用やワンソースマルチユースをより推進し、視聴者ニーズに応える柔軟な編成・制作を実施します。</p> <p>◇4K8Kや国際放送の番組制作も積極的に進め、島根の魅力を広く伝えます。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	✓
3	視聴者コミュニケーションの拠点となることを目指します。	<p>◇地域の賑わいを生み出すことに貢献し、新会館移転を目標に視聴者コミュニケーションの拠点となることを目指します。</p> <p>◇公開番組やイベントを通じて視聴者との結びつきを強めます。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	✓

部局目標 [2020年度]

局名	鳥取放送局
----	-------

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針	
1	<p>地域への貢献 地域改革3年目、「役に立つNHK」をめざします。地域の課題や魅力をしっかりと発信し、「大切なことを、より深く、より身近に」伝える“公共メディア”へ進化します。</p>	<p>◇山陰ミニブロックの取り組みを継続するとともに、拠点局との連携を一層強化します。ワンソースマルチユースをより推進し、効率的・効果的な制作体制を築きます。 ◇地域課題を継続的に取材し、その解決に向けて、県内の情報のハブとなることで地域に貢献します。 ◇地域コンテンツの制作・発信においては、そのPRも含め、放送・企画編成・技術・営業の垣根を超えて、一人一人の意識改革・マルチスキルの向上をめざします。またそのためのあらゆる研修の機会を最大限に活用し、育成します。 ◇ふるさとの魅力を再発見し、誇りや自信につながる放送や編成を実施するなど、地域に根差したサービスを強化するとともに、4K・8K制作でも未来に残す映像アーカイブスを制作・活用します。 ◇地域のニュース・番組を放送・ネット等を通じて、全国・海外へ積極的に発信します。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	✓
2	<p>地域からの信頼 安全・安心の拠点として、住民のいのちと暮らしを守る防災・減災報道を行います。 公共メディアの一員としての自覚を持ち、地域から信頼される放送局を目指します。</p>	<p>◇いざという時には、ローカル放送の充実強化に努め、安全・安心のハブとなるよう、きめ細かな情報を伝えます。 ◇災害時にはテレビ・ラジオ・インターネットを活用し、命を守るため、情報を届けきることに全力を尽くします。また、ライフライン研修等、事前の準備を強化し、万全の体制を作ります。 ◇コンプライアンス、情報セキュリティを徹底し、一人一人が公共メディアの一員としての自覚を持ちます。 ◇放送の安定的送出と良好な送受信環境の整備を進めます。 ◇受信料の理解促進と公平負担の徹底を図り、視聴者からの信頼をさらに獲得します。</p>	“公共メディア”への進化	
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	
3	<p>3地域とのつながり 公共メディアへの進化に向けて、新しい視聴者コミュニケーションのあり方を模索し、地域とのつながりを強化します。 また、働き方改革を推進するにあたり、一人一人との対話を重視し、育成にも注力するとともに、職場全体がモチベーションを高く持ち、仕事に取り組める環境を作ります。</p>	<p>◇公開収録・イベント・取材・受信公開・営業活動等のあらゆる機会を最大限に生かして、職員一人一人が県民と直接対話をする機会を積極的に設けます。 ◇テレビ・ラジオ・HP・twitterなどそれぞれの特徴を活かした戦略でより多くの地域の人たちとつながり、地域で必要とされる放送局をめざします。 ◇東京オリンピック・パラリンピック(2021年度実施予定)に向けては、地域と一体となって盛り上げていくとともに、多様な価値観を認め合う社会の構築に貢献します。 ◇働き方改革においては、密度の高い仕事の進め方を検証・推奨し、目的意識を持って、意欲的に新しい仕事にチャレンジできる環境を作ります。また既存業務の平準化・見直しなどに積極的に取り組み、本体・関連委託等、業務の仕分けを推進します。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	
			創造と効率、信頼を追求	

部局目標 [2020年度]

局名 山口放送局

項番	目標	主な取り組みのポイント(指標等)	経営計画の重点方針	
1	<p>県域放送を一層充実させ、山口県における情報の社会的基盤としての役割を推進する。</p>	<p>◇災害発生時にはローカルファーストを念頭に県民に必要な情報を様々なメディアを通じて迅速かつ正確に発信するとともに、電波確保に向けた不断の取り組みを実践する。 ◇金曜730「Yスペ」を年間20本の放送を目標とし、枠のさらなる定着化を図るとともに、610の年間平均視聴率を前年を上回ることを目標とし、山口県における情報の社会的基盤としての役割を全うする。 ◇4K・8K制作に積極的に取り組むとともに、ネットを駆使した演出を実践し、「地域公共メディア」の進化に向けた取り組みを推進する。</p>	“公共メディア”への進化	✓
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	✓
2	<p>部局横断の取り組みや放送と連動したイベントなどに取り組むことで、地域とのつながりをさらに強化する。</p>	<p>◇部局横断のプロジェクト「キャンパスミーティング」を16ある県内すべての大学で実施する他、山口県の課題解決型授業「PBL」に参加し、山口県の大学教育に貢献する。 ◇地元開催のイベントなどに積極的に関わることで、地域とのつながりを一層強化する。 ◇会館1階フロアーの新たな活用などを通じ、地域に開かれた放送局を実現する。</p>	“公共メディア”への進化	
			多様な地域社会への貢献	✓
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	
3	<p>聖域なき業務改革を全局的に推し進め、経営資源の適正配分を実現する。</p>	<p>◇全局的な既存業務の点検と見直しを継続し、外部パワー要員の最適化をさらに推進する。 ◇企画編成部の既存業務のスクラップ、集約化、標準化を一層推進し、山口局としての新たな視聴者コミュニケーション活動を開発する。 ◇受信料の業績確保に向けた体制をさらに整備し、受信料の公平負担の推進につなげる。</p>	“公共メディア”への進化	
			多様な地域社会への貢献	
			未来へのチャレンジ	✓
			視聴者理解・公平負担を推進	✓
			創造と効率、信頼を追求	✓